

令和4年度 不登校の理解と支援講座

# 不登校の現状と 支援の視点



島根県教育庁教育指導課  
子ども安全支援室

# 5 今後の取組についてII (初期対応・自立支援)

## (1) 不登校対応に組織で取り組む

**1 未然防止**（健全育成）  
「魅力ある学校づくり」

休み始め

**2 初期対応**

早期発見・早期対応

30日以上  
の欠席

**3 自立支援**

事後の対応・ケア

# チームで取り組む(PDCAサイクル)

## 不登校等の状況についてのアセスメント

実態・背景を正しく把握  
しよう

- ・ 情報収集
- ・ 情報集約

## 不登校児童生徒への支援計画

対応方針を明確にしよう

- ・ 情報共有
- ・ 取組計画 (長期、中期、短期)

## 実 行

組織的に取り組んでいこう

- ・ 周知徹底
- ・ 役割連携
- ・ 具体的な取組

## 指導・支援等についての点検・検証

点検・見直しをしよう

- ・ 効果を検証
- ・ 課題の明確化

指導の  
ブレを  
防ぐ

合  
意  
形  
成

教頭・主幹教諭・生徒指導主任・主事  
教育相談コーディネーター等がコーディネーター

# 不登校等の状況についてのアセスメント

## 実態・背景を正しく把握しよう

### 情報収集

学校内外のあらゆる場面に対して教職員全員でアンテナをはり、情報を得る。

- 担任、授業担当者の観察からの情報
- 養護教諭からの情報
- 昇降口でのあいさつ運動からの情報
- 面談、アンケートからの情報
- 家庭からの情報
- 地域からの情報
- 保育園、幼稚園、小学校、中学校等からの情報

### 情報集約

得た情報を集約するシステムをつくる。

- ノート、ファイルへの記録
- 共有データへの記録
- 健康観察一覧表作成
- 綿密な実態調査
- 蓄積して次年度へ

## 対応方針を明確にしよう

### 情報共有

個人ファイル等を回覧したり、定期的に会を行ったりして情報を共有する。

- ノート、ファイル等、資料の回覧
- 年度当初の児童理解の会
- 情報共有の会の開催
- コンパクトケース会議

### 取組計画の策定

指導・対応方針を確認し、具体的な取組計画を策定する。

- 見通しをもった支援
- 支援のスケジュールづくり
- タイミングのよい他機関連携

## 組織的に取り組んでいこう

### 周知徹底

指導・対応方針及び取組計画についてくり返し説明し、合意形成を図る。

- 教職員への周知徹底
- 児童生徒への周知
- 保護者への周知

### 役割連携

役割連携を行い、組織的に支援を行う。

- 管理職の役割
- コーディネーター（教頭、主幹教諭、生徒指導主任・主事、教育相談コーディネーター等）の役割
- 担任、養護教諭、相談員の役割
- SC、SSW、他の関係機関の役割

## 組織的に取り組んでいこう

### 具体的な取組

児童生徒や保護者の気持ちに寄り添い、各校や各担当の個性を生かした支援の方法を工夫する。

- 積極的な声かけ
- スモールステップの目標設定
- 1日のスケジュールづくり
- 達成感を与える工夫
- 児童生徒の居場所づくり
- 相談室の工夫
- メールの活用
- 長期休業終了前面談
- 不登校支援会議



## 点検・見直しをしよう

### 点検・検証

随時取組を見直して修正を行い、効果的な支援を行う。

- 取組の見直し
- 取組の効果検証、課題の明確化
- 改善策の検討
- 支援や指導、対応方法の修正



これらのサイクルを回していく

## ～具体的な取組内容～

### 情報収集・情報集約

#### 「記録ノート」（他類似の記録ファイル類多数あり）の活用

- 記録ノートに児童の様子を記入し、回覧することで、児童の課題の**早期発見、早期対応**に結びついた。また、1年間の記録を残すことで、児童の変容や指導内容を**確実に次年度に引き継ぐ**ことができた。
- 別室対応や個別対応の児童の支援状況や保護者との連携状況を**正確に把握**できるようになり、共通理解に基づく**チームでの**児童対応・保護者対応につながった。
- 子どもと親の相談員との**情報交換の時間が十分にできない時も**、ファイルを見て不登校傾向の児童について日々の様子を把握することができた。

#### 「子どもを語る会」等での全職員の共通理解

- 児童の問題行動及び不登校の状況、不適応を示す児童への対応等について、担任及び担当者からの情報提供、意見集約、対応の共通理解を図った。**担任1人が問題を抱え込まず**、また、他の教員からの働きかけや情報収集がしやすくなった。

## ～具体的な取組内容～

### 情報収集・情報集約

#### ランチミーティングでの情報共有

○毎週昼食時に支援員、特別支援教育コーディネーターで児童に関する情報共有を行っている。支援員等には、**それぞれの立場での見取りや気づき**があり、児童の支援にとって非常に有益な情報である。それを**集約**することで、より良い支援へとつなげていくことができる。

○担任と支援員等が連絡・相談できる時間は限られている。**特別支援教育コーディネーターが情報を集約**することで**速やかな情報伝達**が行える。

#### 保健室来室児童数記録の共有など保健室との連携

○**毎月の出席状況を**不登校対策コーディネーターが確認し、1日欠席は電話連絡、2日連続欠席は家庭訪問するようにした。**また遅刻が続く児童を把握し**、気になる児童についてはケース会議を行い、対応した。**保健室に来室する回数が多い児童**の把握を毎日おこない、担任に様子を聞き、教室での様子を確かめるようにしている。

## ～具体的な取組内容～

### 方針の明確化

#### 不登校対策委員会の開催

○**毎月1回程度**、不登校傾向の児童について、現状の確認と支援の方向を相談するために、対象児童や保護者の支援に関わる者が参加し、不登校対策委員会を開催した。会議終了後は**会議記録を関係者へ回覧**し、会議内容や今後の支援方針を確認した。様々な立場、視点から児童や保護者、その他周りの環境を捉え、対応の方針について検討することができた。また、今後の方針についても情報を共有し、**(チーム)で対応**することができた。

#### 情報共有、支援方針の明確化と検証、支援方針の改善のシステムをつくる。

○**コーディネーター**が週ごとに支援計画を立てる。支援計画には、現在の児童の状況、**だれがどこでどんな支援を**するのか明確に記入し、管理職、保健室、特別支援部、担任に配布する。金曜日には、週の取組を振り返り、次週の支援に反映させる。生徒指導職員会において情報共有を図り、長期的な支援の検証、改善を**全体に周知**する。これらの取組をを行うことで、短期・長期的な支援の方法を明確にし、検証、改善することができた。

## ～具体的な取組内容～

### 方針の明確化

#### デスクネット（校務支援システム）の活用

○支援が必要と思われる児童に対して、**支援員の支援体制表**を毎週作成し、**全職員**にデスクネットを活用して配信し周知徹底する。合わせて、「**支援会議の結果**」や「**支援の方向性**」についてもその都度情報を発信し、情報共有の徹底を図り児童支援体制を充実させていく。デスクネットを活用することで、支援体制表や児童個々の新たな変容・支援方針等を全職員で共有して指導・支援に当たれるようになった。また、**さまざまな立場の職員**が支援を必要とする児童に対して**声かけ**をしたり、**関わりを持ったり**できるようになった。さらに、**担任が孤立感をもたず**、組織で対応しているという認識が職員間に育ってきた。

### 組織的な取組

#### 専門家、外部機関との連携

○**SCを活用**するなど、専門家の視点を導入することで、専門機関、医療機関との連携が進み、必要な支援ができた。

# R 3 不登校等対応体制充実事業指定校における取組の具体的内容と効果 (ヒント・アイディア) より

## ～具体的な取組内容～

### 組織的な取組

#### 専門家、外部機関との連携

○SCを活用するなど、専門家の視点を導入することで、専門機関、医療機関との連携が進み、必要な支援ができた。

#### 情報伝達の工夫・給食の時間の利用

○別室登校している児童は、**学級での学習の様子が分かりにくい**ため、担任がその日の時間割、学習内容を記入し、不登校対策コーディネーターへ渡し、  
不登校対策コーディネーターが別室登校している児童へ時間割表を渡すとともに、その日の授業についての詳しい情報を知らせるようにしたことで、児童が教室へ上がる時間を決めるだけでなく、相談室で学習を支援する際にも、教室の学習の進捗を確認しながら学習を進めることができた。また、児童にとっても、**教室での学習内容**を知ることができ、安心することができた。

○担任が児童と過ごす時間を確保するために、**給食の時間**を利用した。給食時に担任が相談室で給食を食べ、代わりに**不登校対策コーディネーターが学級で給食指導**をする機会を作った。別室登校児童が、担任とまとまった14時間を、**給食の時間**を利用して過ごす時間を確保することができた。

## ～具体的な取組内容～

### 組織的な取組

#### 安心できる居場所にするためのルール等の整備

○学級以外の児童の居場所として、**別室の利用について**校内体制の整備と部屋の**ルールづくり**を行い、子どもが安心感のもてる居場所づくりを行う。ルールづくりを行い、子どもに示すことで、部屋の過ごし方がわかりやすく、**落ち着いて過ごす**ことにつながった。利用の仕方や対応する教職員を明確にしたことで、校内体制の整備につながった。

### 点検・検証

#### 支援ファイルの記録を見直し、今後の支援に役立てる。

○毎日の子どもと親の相談員の記録から、教頭、主幹教諭、担任が支援方法を検討することに加え、**さらにより素早い対応を目指し**、教頭、子どもと親の相談員、図書館司書の三人でミニケース会議を持ち、情報共有と振り返りを行うことでミニケース会議での情報交換と振り返りをもとに、**スピード感**をもってよりよい支援につなげることができた

# 5 今後の取組についてII (初期対応・自立支援)

## (2) 社会的自立に向けた支援



**1 未然防止**（健全育成）  
「魅力ある学校づくり」

休み始め

**2 初期対応**  
早期発見・早期対応

30日以上の欠席

**3 自立支援**  
事後の対応・ケア

## 支援体制を整える必要性

### ■ 担任の負担感

- ・ 担任の役割は多く、担任も支えを必要としている。

### ■ 校内での支援の限界、専門性の必要感

- ・ 専門的な知識がなく、対応が難しいケースもある。

組織としての取組、専門機関と連携した取組  
が必要

支える人を支える

支援者の困り感を共有する。支援者を支える。  
組織として取り組む。専門機関と連携する。

## 関係機関との連携の実際

### ■学校が感じていること

- ・どこにどのような件を相談したらよいのかわからない。
- ・つなぐ際の流れを知っていると安心できる。
- ・専門機関のことをもっと知って活用したい。
- ・連携すると助けになる。
- ・違う立場から意見を言ってもらえる。 など

つなぎたい  
つながりたい

連携の経験や十分な知識、情報がないために  
有効な連携ができていない

知る・つながる

関係機関との連携に関する知識・理解を深める。  
関係機関と連携する。

## 連携にかかわる支援体制を見直してみましょう

### 専門家の活用

- 組織が形骸化し、対策を専門家に依存している状況はありませんか。

### 機関連携

- 具体的な関係機関（団体）の存在と活動内容に関する理解は進んでいますか。
- 機関連携の必要性について、教職員の共有はなされていますか。
- 対応窓口や管理職と教職員の役割分担等、組織対応の体制は整っていますか。

# 学校における支援体制の充実

## 教育相談体制

- 関係者間で共有できる環境となっていますか。
- 専門家は参加していますか。

## 校種連携

- 状況により、校種間で引き継ぐ内容が整理され共有されていますか。

■まず取り組むことを1つ考えてみましょう。

魅力あるよりよい  
学校づくり

いじめ、暴力行為等問題行動  
を許さない学校づくり



あらゆる教育活動をとおした「居場所づくり」  
や「絆づくり」の取組により、学校がどの児童  
生徒にとっても「意味のある大切な場」とな  
るために、『魅力ある学校づくり』を推進し  
ていきましょう。

# 参考資料：生徒指導リーフ(文部科学省 国立教育政策研究所)

文部科学省  
国立教育政策研究所  
The National Institute for Educational Policy Research

※最新版を、<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf02.pdf> から、直接にダウンロードできます。

生徒指導リーフ

Leaf over the theory and practice on Seitoshidou!

「<sup>まひな</sup>絆づくり」と  
「居場所づくり」

Leaf.2

生徒指導・進路指導研究センター

文部科学省  
国立教育政策研究所  
The National Institute for Educational Policy Research

※最新版を、<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf14.pdf> から、直接にダウンロードできます。

生徒指導リーフ

Leaf over the theory and practice on Seitoshidou!

不登校の予防

Leaf.14

生徒指導・進路指導研究センター

文部科学省  
国立教育政策研究所  
The National Institute for Educational Policy Research

※最新版を、<http://www.nier.go.jp/shido/leaf/leaf22.pdf> から、直接ダウンロードできます。

生徒指導リーフ

Leaf over the theory and practice on Seitoshidou!

不登校の数を  
「継続数」と「新規数」と  
で考える

Leaf.22

生徒指導・進路指導研究センター